

平成27年度第3回福岡市食育推進計画検討部会 議事録

1. 日 時：平成28年1月15日（金） 15：00～16：15

2. 場 所：エルガーラホール7階 会議室1

3. 会議次第

- | |
|--|
| 1 開会 |
| 2 報告および議題 <ul style="list-style-type: none">・第2回検討部会でのご意見を踏まえて（報告）・市民の食育に関するアンケート調査の結果について（報告）・第3次福岡市食育推進計画の素案について（議題） |
| 3 閉会 |

4. 出席委員：13名

5. 報道機関取材者及び傍聴者

報道機関：無 傍聴者：無

6. 議事内容

事務局	【報告：第2回検討部会でのご意見を踏まえて】 第2回検討部会での意見についての振り返りと対応について報告
事務局	【報告：市民の食育に関するアンケート調査の結果について】 「市民の食育に関するアンケート調査結果（資料1）」の概要と集計結果について報告
委員	「ふだん朝食を食べますか」という問いについて、「ほとんど食べない」との答えが多かった年代を教えてください。
事務局	「ほとんど食べない」と答えた人の割合が特に高かったのは、20代・30代である。
委員	やはり、国民健康・栄養調査の結果と同様である。

事務局	他の年代と比べ、20代・30代の回答者が少ないという前提はあるが、それでも20代・30代の男性は、「ほとんど食べない」と回答した人が多いという結果であった。
委員	夜食や夜遅くに食事をするため朝食を食べないのではないかと。やはり青年期が重要な課題である。また、そういった青年期や若年の保護者が、きちんと子どもに朝食を食べさせているのかについても問題であるといえる。
委員	他の調査項目も含め、全体的に30代男性はポイントが低いという結果か。
事務局	調査結果全体について、総じて30代男性は課題が多いといえる。
委員	学生というよりは、むしろ若いサラリーマンなどではないか。年齢別や性別毎の結果を出せば、食育推進の対象者をより明確に把握できるのではないかと。
事務局	【議題：第3次福岡市食育推進計画の素案について】 「第3次福岡市食育推進計画素案（資料2）」及び「具体的な目標値の設定について（資料3）」の構成及びアンケート集計後の修正箇所について説明
委員	国においても食育推進計画の目標値を設定する際には、同様のアンケートを実施しているのか。
事務局	国においてもアンケート調査を実施したり、その他の調査で得られた数字を用いたりしているが、基本的には同様のアンケート調査を実施の上、目標値を設定している。
委員	今回の本市のアンケート調査の場合は、各家庭宛てに郵送しているのか。
事務局	各個人宛てに郵送を行ったものである。
委員	「一日の全ての食事を一人で食べることがありますか」の問いについて、社会的には単身者が増えているが、福岡市の場合是一般世帯（2人以上の世帯）が多いため、「ほとんどない」との回答が多かったのではないかと。家族構成によっても、共食の頻度については違いがあると思われる。
委員	具体的な目標値における「『ふくおかさん家のうまかもん優先利用事業者』の登録数」について、目標値が1,300となっているが、この事業は開始して何年か。また、目標値の設定方法について教えて頂きたい。
事務局	昨年9月から登録の募集を開始し、約3カ月が経過したところである。福岡市内産の

<p>委員</p>	<p>農水産物が手に入る・食べられるお店を皆さんにお知らせしようという取り組みであり、1,300という数字は、市内の小売店や飲食店が約13,000店あることから、その1割をブロック目標として定めたものである。昨年4月1日から条例が施行され、約3カ月で32店の登録に至っている。</p>
<p>事務局</p>	<p>「ふくおかさん家のうまかもん優先利用事業者」の登録店には、分かりやすい目印などの表示があるのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>5円玉に似たロゴマークを作成し、マークを付したのぼりやステッカーを立てている。それらを目印に福岡市内産の農水産物を使用している店舗であることを広く周知していきたいと考えている。</p>
<p>委員</p>	<p>今現在、登録している店舗の内訳について教えて頂きたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>32店舗の内訳については、約半数が小売店であり、もう半数が飲食店の登録である。しかし、焼きそば屋で市内産のキャベツを使用している店があるが、1年中市内産の物が確保できるわけではないため、市内産キャベツの出荷時期においては使用するという条件のもとで登録を行っている事例もある。登録については、ただ厳正に取り扱うことよりも、まずは市民の方々に知って頂くことの方が最優先であると考えており、事業開始後5年間については、その制度の周知や登録店の増加に取り組んでいきたいと考えている。</p>
<p>委員</p>	<p>目標ごとの目指す姿について、「食事の基本的マナーが身についている」とあるが、箸とお茶碗を手で持つということが日本の食文化であり、正しい持ち方について具体的に示した方がよいのではないか。</p>
<p>事務局</p>	<p>どの程度身につけているかという調査や評価の方法については、日常生活上のことであるため調査の方法を定めることが難しく、また数値化して評価をすることは困難であると考えられるため、実際の現場等における指導や取組状況について把握を行うことで確認を行っていききたいと考えている。</p>
<p>委員</p>	<p>大学の栄養科の4年生の約1割が箸を正しく持てないという状況である。授業の時に箸を正しく持てているか必ず確認しているが、お茶碗も正しく持てないような状況である。一番最初に家庭の中で箸の持ち方をしつけられると思うが、全然しつけられていない。何らかの形で、正しい持ち方について啓発できるようなものを載せて頂きたい。日本の文化として、綺麗に食事をすることを残していきたいので、数値ではなく、何らかの形で項目として残して頂きたい。</p>

委員	<p>第3次計画の目標値に向かって、行政側の対応として具体的に何か考えはあるか。目標を作っただけで終わってしまうのか。例えば、農林漁業体験については、県が行っているようなツアーやバスハイクを実施する、市内産農水産物については、うまかもん優先利用事業者をこうしていきますなど、目標に向かって行政側がどういった努力をするのかという具体的な方策はあるのか。所管課が分散しているので、各課それぞれで取り組むということなのか。もしくは、あまり明確な行動方針は無いということか。</p>
事務局	<p>例えば、これまでは主に学校や地域において農業体験を実施していたが、農林水産省から「企業向け農林業体験導入マニュアル」というのが発行されている。企業を対象に、レクリエーション事業の一環として農林体験を実施する“すすめ”のような内容になっている。国や県、様々な団体等において、そういった先進的な取組みや参考となる事例が既に多数あることから、第3次計画における行政側の取組みの一つとして、そのような情報の収集や発信・提供といった役割の部分で、これまで以上に力を入れていくことが重要であると考えている。</p>
委員	<p>中村学園の学生を対象に農業体験を実施している。「農林漁業体験をしたことがある市民（世帯）の割合」の現状値 18.6%については、そういった体験のほか、小学校での稲刈りや芋ほり体験も含んでいるものと思われる。農業体験については、市内全校で取り組めればよいのではないかと思う。また、JAでは農家のグループが、小学校で味噌作り体験教室を実施している。今後、公民館でも実施できるようフォローをして頂きたい。</p>
委員	<p>JAが行っている味噌作り体験が、自分の地域の公民館で初めて実施された。私の地域では、毎年小学5年生に、稲の種まきから収穫まで体験させ、2月には地域の高齢者と一緒にかまど炊きをして、昔の調理法を学びながら食べるという体験も行っている。</p>
委員	<p>小学校 145 校の中でも、地域性があるため、田畑が無い等の理由で、農業体験を実施したくても困難な状況があるのも事実である。</p>
委員	<p>漁業に関しては、福岡市の中央卸売市場で小学生から大人までが、魚のさばき方や魚の説明を受けるような講習会が以前から実施されているが、講習会の存在を知らない人も多いため、中央卸売市場もそういった事業の取組みについて、市政だより等で大きくPRすることで、目標は徐々に達成していけるのではないかと思う。</p>
委員	<p>お魚の料理教室については、那珂川町の学生数人がボランティアで行っている。</p>

委員	教室に参加した子どもたちは大変喜んでいる。
委員	アンケート結果の中に、「食育月間」や「食育の日」があまり知られていないとの報告があったが、「食育月間」や「食育の日」に絡めて、食育のイベント等を仕掛け、目標値を達成するというを考えてはどうか。
委員	食育というのは、目標は作るものの、予算についての十分な措置がなされていないように思われる。また、計画達成のための国の支援体制や、食育における地方行政の役割などについて、国ははっきり示していないように思われる。福岡市においては、他の関連団体等との協力体制が整っていると思われるので、本日の意見の中で、市が独自でできることから取り組んでいくことがよいのではないかと考える。 <p style="text-align: right;">(議事終了)</p>